

【クラス担任制・クラス懇談会】

本学は、学修、学生生活、進路などについて学生の相談相手となり、指導・支援を行う「クラス担任」制度を設けています。看護学科では1学年を2クラスに分けてクラスごとに担任、副担任、サポーターの教員を置き、年度開始当初に全学生を対象に個別面談を行う他、随時相談にのることにより、学生一人ひとりの状況に応じたきめ細かいサポートを行っています。また、クラス内のコミュニケーションを図るため、学生の中からクラス委員を選出し、担任と相談しながらクラス運営や年1回のクラス懇談会を行っています。

【フレッシュマンセミナー・導入教育】

看護学科での学修について理解を深め、大学生活に関する不安を軽減すること、大学生活の基盤となる新入生同士や教員との人間関係の構築や心身の健康の保持増進などを目的として、1年次にフレッシュマンセミナーと導入教育を行っています。

4月初旬に開催するフレッシュマンセミナーは、1期生から5期生までは狭山キャンパス内のセミナーハウスに宿泊し、1泊2日でウェルカムパフォーマンス、校歌練習、教員紹介や学生の自己紹介、先輩たちとの座談会、キャンパスツアー、レクリエーション、4年後の自分への手紙など多彩なプログラムを実施していました。子ども支援学科やりハビリテーション学科との合同プログラムもあり、学科間交流の機会にもなっていました。2020（令和2）年度はコロナ禍で中止となりましたが、翌年度からは、半日に短縮して学科ごとに開催する形式で再開しています。

導入教育では、埼玉県警察による「防犯講座」、災害時を想定した「炊き出し訓練」、情報セキュリティや学内情報処理システムについて学ぶ「情報処理講座」、学修の基盤となる心身の健康を維持・増進するための「健康教育」、「大学生の学び方講座」、「論文作成講座」、臨地実習に役立つ「マナー講座」などを行ってきました。



フレッシュマンセミナーのキャンパスツアー

導入教育の
防犯講座

導入教育の健康教育

【国家試験支援】

看護師、助産師、保健師の国家資格を取得するためには、所定の科目をすべて修得した上で、4年次2月に行われる国家試験に合格する必要があります。そのため、看護学科では開設当初から国家試験支援部会を設置して、組織的な支援を行ってきました。

● 1期生が国家試験を受けるまで(2014～2017年度)

学科教員が中心となり、看護師国家試験出題基準「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」に相当する課題を独自に作成し、1年次の6月から1月まで20回にわたり課題学習を行いました。課題は「調べる」「書く」を重視した内容で、課題提出日が近づくと図書館の利用率が増えました。また、国家試験予備校から講師を招いて1、2年生対象の学内講座を開催し、看護師国家試験とはどのようなものか、問題の解き方、低学年時から学修することの重要性を説明し、解剖生理学の講義を行いました。

さらに、1年次から4年次まで各学年で学修段階に応じた模擬試験を行い、国家試験支援部会でポートフォリオ用紙を作成して学生に配布し、受験前には「目標」、受験後には「自己採点結果」と「今日の振り返り」、「今後の課題」を書くように指導しました。結果返却時には模試結果説明会を開催し、模試結果の見方を説明するとともに、ポートフォリオに「成績」、「成績を確認した感想・気づき」、「新たに見えた課題」を書き、単に模擬試験を受けるのではなく、学生が自己の学修課題や成長を確認し、日頃の講義や演習、実習の重要性を認識できるようにすることによって、主体的な学びを促しました。

4年次には、国家試験予備校講師による国家試験対策講座を開催し、年末には本番に近い会場受験を体験できるよう、板橋校舎で模擬試験を実施しました。学生はいつもとは異なる環境で緊張感をもって受験し、よい刺激となりました。年明けには成績不振者に対する補習講座も行いました。

各学年における模擬試験や4年次の国会試験対策講座の時期や内容、模擬試験受験料徴収の仕組み、国家試験受験手続説明会の内容、国家試験実施後に行う自己採点、合格発表後の対応等、今日の国家試験支援策の基礎を築きました。

● 現在の国家試験支援策

開設当初からの取り組みを発展・精錬させ、現在は以下のような国家試験支援策を行っています。各学年で学修進度に応じた模擬試験を実施し、各自の到達レベルや課題を確認することで、段階的、計画的に学習に取り組めるようにしています。

4年次には、国家試験予備校の講師を招いて対策講座を開催するなど、支援策を強化しています。助産師や保健師の国家試験については、各課程の教員が支援しています。



4年間の国家試験支援策スケジュール

学年	看護師課程	助産師課程・保健師課程
1年次	・低学年向け模擬試験（7月）	
2年次	・低学年向け模擬試験（6月、12月）	
3年次	・看護師国家試験模擬試験（5月、9月、1月）	<保健師課程>看護師必修問題過去問学習（3月～4年次4月）
4年次	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策オリエンテーション（4月） ・看護師国家試験模擬試験（5月、7月、9月、10月、11月、12月、1月） ・国家試験予備校講師による国家試験対策講座（4月～1月：30回） ・学科教員による学習計画立案や学習に関する個別支援 ・国家試験受験手続オリエンテーション、出願書類の配布・回収（11～12月） ・国家試験終了後の自己採点、国試対策に関するアンケートの実施（2月） 	<保健師課程> <ul style="list-style-type: none"> ・保健師国家試験対策オリエンテーション（4月） ・保健師国家試験模擬試験（6月、9月、10月、1月）と発表会、個別面談 ・保健師課程教員による補講、学習会（10～1月）
		<助産師課程> <ul style="list-style-type: none"> ・助産師国家試験模擬試験（7月、12月） ・助産師課程教員による個別支援（1月）

● 看護師・助産師・保健師 国家試験合格状況

看護師、助産師、保健師のいずれについても、1期生から6期生まで常に全国平均を上回る高い合格率を維持してきました。2022（令和4）年度には看護師、助産師、保健師の3つの資格で合格率100%を達成しました。

看護師・助産師・保健師 国家試験合格状況



卒業期	試験実施年度	合格率 (%)						本学の合格者数/受験者数 (人)		
		看護師		助産師		保健師		看護師	助産師	保健師
		本学	全国	本学	全国	本学	全国			
1期生	2017（平成29）	99.0	91.0	100.0	98.7	94.4	81.4	98/ 99	6/6	17/18
2期生	2018（平成30）	100.0	89.3	100.0	99.6	92.9	81.8	104/104 (既卒者1含む)	4/4	13/14
3期生	2019（令和元）	98.9	89.2	100.0	99.4	100.0	91.5	94/ 95	3/3	12/12
4期生	2020（令和2）	98.9	90.4	100.0	99.6	100.0	94.3	90/ 91 (既卒者1含む)	5/5	11/11
5期生	2021（令和3）	99.0	91.3	100.0	99.4	100.0	89.3	103/104 (既卒者1含む)	6/6	8/8
6期生	2022（令和4）	100.0	90.8	100.0	95.6	100.0	93.7	100/100 (既卒者1含む)	6/6	12/12

※助産師、保健師の受験者数：試験実施年度の各課程修了見込者全員

● 看護学科の国家試験支援策が学園貢献賞を受賞(2018年度、2023年度)

こうした実績が高く評価され、2018（平成30）年度には齋藤麻子国家試験支援部会長ら「健康科学部看護学科 国家試験対策チーム」が学園貢献賞（学長賞）を受賞しました。さらに、2023（令和5）年度には、北澤健文部会長をはじめ、2021（令和3）年度に定年退職した今留前学部長を含む看護学科教員一同に、学園貢献賞（学長特別賞）が授与されました。

【就職支援・卒業後のキャリア形成支援】

<就職支援>

本学はもともと文系の女子大学でしたので、手厚い就職支援が行われていました。看護学科ではこうした伝統を受け継いで、就職支援部会の教員と狭山学務部学務課職員が協働し、看護職固有の就職活動に即した支援を行っています。

3年次12月に領域別実習が終わると、看護師・助産師の就職活動が本格化します。そのため、3年次11月に「就職ガイダンス」として、看護学科教員である就職支援部長から就職活動の留意点を伝えています。3年次12月には「GPS-Academic」というアセスメントテストを実施し、1月に「フォローアップガイダンス」を行うことで、就職活動に向けて自己分析を深められるようにしています。また、1月には「OG懇談会」を開催し、看護師、助産師、保健師として活躍している卒業生を招き、就職活動や国家試験対策について講演や質疑応答を行っています。さらに「病院説明会」を開催し、病院の看護部や人事部の方から業務内容や採用試験等についてお話を伺う機会を設けています。

3年次末から4年次には、担任教員や「看護研究Ⅱ」の指導教員が、就職先の選び方やエントリーシートの書き方等、就職に関する相談にのっています。また、豊富な実務経験と管理職経験をもつ看護専門職が来校し、希望者に対して個別に就職指導を行う「就職アドバイザー」制度があります。さらに、ハローワーク職員による就職指導も受けられます。

大部分が地方公務員として就職する保健師については、看護師や助産師とは就職活動が異なるため、保健師課程選抜試験合格者に対し、3年次3月に「保健師就職説明会」を開催し、保健師課程の教員、就職アドバイザー、保健師内定者による講義や質疑応答を行っています。

また、公務員試験予備校講師による「公務員対策講座」を学内で実施しており、希望者は1、2年次から受講できます。

<卒業後の進路>

就職決定率はほぼ毎年度100%となっています。大部分は看護師として医療機関に就職していますが、就職先は、国立病院機構、都道府県・市町村や地方独立行政法人、日本赤十字社や済生会等の運営する病院、大学病院、民間病院など多岐にわたり、所在地も埼玉県内や東京都内にとどまりません。本学看護学科は附属病院を持たず、さまざまな施設で実習を行うため、医療機関ごとに特性が異なることを実感でき、自分に合った就職先を選ぶ上で役立っています。

助産師課程修了者は、本学実習施設である市立青梅総合医療センター（旧 青梅市立総合病院）をはじめとする医療機関に、助産師として就職しています。

保健師課程修了者は、公務員試験を突破して新卒で保健師として就職する割合が高く、埼玉県内市町村や特別区、ふるさとの自治体などに就職しています。看護師として働いた後に保健師に転職する卒業生も増えてきました。

また、看護師、助産師、保健師はいずれも国家資格であり、常に社会から求められている強みがあることから、職種を変えずに転職する 경우가少なくありません。そのため、卒業後も随時、看護学科教員が就職に関する相談に応じています。

看護学科 卒業生の進路状況

卒業期	卒業年度	卒業生数	就職者数				進学者数	就職率 (※1)	就職決定率 (※2)	
			総数	内 訳						
				看護師	助産師	保健師				その他
1期生	2017 (平成29)	99	93	84	6	3	-	4	97.9%	100.0%
2期生	2018 (平成30)	103	99	91	3	5	-	2	98.0%	100.0%
3期生	2019 (令和元)	95	94	87	3	3	1	-	98.9%	98.9%
4期生	2020 (令和2)	90	89	77	5	6	1	1	100.0%	100.0%
5期生	2021 (令和3)	104	101	88	6	6	1	1	98.1%	99.0%
6期生	2022 (令和4)	100	95	84	6	4	1	4	99.0%	100.0%

※1:就職率=就職者数÷(卒業生数-進学者)

※2:就職決定率=就職者÷就職希望者

< 母校に帰る日 >

本学では、卒業後のキャリア形成支援の観点から、卒業して1年目の“新卒業生”たちが大学に集まり、同級生や教員たちと話し合う「母校に帰る日」を学科ごとに開催しています。

看護学科では、病棟で夜勤を担当するようになり不安が高まりやすい6月に開催しています。毎年多くの“新卒業生”たちが集まり、業務内容や教育体制、日頃の悩みや解決策などを語り合い共感しあい、教員から支持や助言を得ることで、エネルギーをチャージしていきます。「母校は母港」と実感できる一日となっています。



【卒業生たちの活躍】

2017 (平成29) 年に1期生が卒業してから6年たち、看護学科の卒業生総数は2022 (令和4) 年度末で591人となりました。まじめでひたむきに看護に取り組む姿勢は、就職先から高く評価されています。実習指導者として活躍する卒業生も増えました。

また、看護学科3年生に対する就職支援である「OG懇談会」や、2022 (令和4) 年度から始まった授業科目「キャリアデザイン」の講師として、現在の活動内容や在学中の学び方について、在校生たちに伝えてくれる卒業生もいます。2023 (令和5) 年度の導入教育では、本学所在市の保健師として就職した卒業生が健康教育を担当しました。

自己研鑽に励み、各種資格を取得したり大学院に進学したりする卒業生もいます。

卒業後も引き続き、本学の建学の精神「自主自律」に則り、生活信条「愛情・勤勉・聡明」を実践していることがうかがえます。